



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	本調査の方針
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	鈴木喜多野清一著『日本農村社会調査』（国立書院、昭和 23年 10月）に関連した草稿。 200字詰め 14枚。
Issue Date	1948-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77330
Type	manuscript
File Information	D011_01.pdf



本調査の方針

本書において示して居る立案に基ついて

行方水」調査は、^{日本の}特定^の地方に於ける農村の

社会生活の基礎的構造とかくの如き構造を通

じて管見せしめ、社会生活の实態を闡明する

ものである。

大まかと思へば日本の農村住民の覺して居る

社会生活には皆共通の型がある。これは日本

的な農村生活の型である。これはアフリカ大陸

の農村生活の型とも幾分異つて居るが、欧米

行ヲ改メ

の農村生活の型とは全種異つて居る。こゝに

農村生活の型と云ふのは農村の人々が生活

して行く場合に当然の事として採用して居る

と云ふのは、^{行いながら感じながら型である。それは習慣的に}の制式や模習である。人は社会生活に

受む以上、^{に抱かざるを得ない}俗弊や制式や模習を相互に拘束し

合つて生活して居る。又、相互に破綻し

合つて俗弊があり、皆同様に模範を期待を持ち合

つて居る。は、人の社会には秩序があり平

和である。況んや。と人を約束と期待は人が

集まり、生活して居ると云ふには必須の條件

てあゝ。それか、ない。度には只暴力と奸智か支
 配すゝの。みであゝ。然り今尚ほ暴力と奸智は
 存続して居るが、其文化的終端の程には標
 本の段階があゝ。
 僅か三十社の山奥の一部落に平和と発展
 があり、人は皆何程かの希望をこへ持つて生
 活をつづけ、居る。かくの如き山阿村に於い
 て、すゝ暴力と奸智が偏若無人であゝ事は出来
 ない。そこには何れも社会秩序を然かあゝし、
 社会の制を懐疑か懐存し、村人はこれを

五	子
に	す

の
其日

く
く
く

6	三
---	---

2
15

通
子
子

中
七

金
湖

子
行

3
10

現今都市の
生活実態

No. _____

本書の調査年順、各段には、今日の生活型に	より、より、村、毎に、其、現今、構造、は、是、り、て、居、る、。	地、方、的、文、化、的、但、性、や、自、然、的、條、件、や、工、吏、的、了、情	色、に、又、村、毎、に、多、少、の、地、區、は、常、に、有、る、。	は、日、本、の、中、村、的、な、者、と、な、り、て、あ、る、。	日、本、の、中、村、的、な、者、と、な、り、て、あ、る、。	す、る、。	左、に、あ、る、。	戸、口、。但、し、現今、構造、の、地、域、や、精、神、に、は、自、然、的、	地、方、的、な、。
----------------------	----------------------------------	---	-----------------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------	-----------	---------------------------------------	-----------

國立書院

のみには、最も簡単にほとんたをわにかん
 したなく大抵に正しいか、と云ふ事につい
 ても或る程おの見過しを誘つて居る。即ち旅行
 中に通りかゝつた所は一々の村の記号的特徴
 を二五の字の範囲におよび知りていと思ふ場
 合には、どんな處を尋ねるよいか。二三回
 滞在出来る場合、一月滞在出来る場合、数
 年するに亘つて調査し得る場合、それ等の色々
 の場合、廣くは道不及な可調査事項を考へ、
 事がある。それは大抵に農村社会生活の構

男	之	以	小	前	要		日	分	造
性	二	組	は	川	國	凡	か	也	一
的	か	分	は	高	特	そ	い	浮	格
統	く	會	た	原	に	社	て	動	下
一	始	は	。と	在	作	会	あ	的	あ
と	め	は	ん	現	を	描	じ	皮	り
と	い	は	を	象	な	寫	。	厚	
二	小	は	種	は	し	真		の	
に	い	は	種	は	て	中		た	
存	つ	は	類	國	て	最		部	
す	て	は	の	體	て	も		分	
。	あ	は	。	如	て	實		が	
全	い	私	。	取	あ	現		自	
體	多	等	。	り	い	の		が	
の	数	の	。	上	て	多		一	
記	の	記	。	は	あ	い		定	
念	。	念	。	と	。	。		し	
構	。	多	。	ち	。	。		て	
造	の	所	。	や	。	。		た	
と		は	。	い	。	。			

は同一ではなかつた。その結果として、
 係に常は一政として片。即ち既に述べた場合
 かあると思ふ。その結果として、地域の記
 号化の基礎的な単位は、級制あるいは村の
 地域内の社会的統一である。多くの場合、これは
 大字と呼ばれる区を指して片。さうして、た
 合も多い。又、これを部落とよんで片。と、こ
 も多い。また、其地方に現在部落と呼んで片
 するものがある。旧村の一部である。その時、旧
 村の幾つかを合大場と云ふ。然し、その間、

の、形、意、の、格、の、の、形、階、の、意、圖、が、さ、ら、に、甲、種、し、
 予、の、。、鑑、識、化、の、形、意、の、修、い、事、便、は、実、能、性、合、し、
 い、め、さ、し、を、鑑、賞、す、。、事、は、客、観、で、な、い、。、さ、し、は、
 長、期、に、亘、り、幾、多、の、調、察、的、な、見、こ、精、微、な、考、察、に、
 よ、つ、て、の、み、可、能、で、な、い、。、比、較、的、短、時、間、に、行、く、
 か、規、模、の、調、査、に、お、い、て、は、鑑、識、化、の、形、意、の、為、に、
 集、団、に、お、き、院、家、が、所、定、さ、し、の、は、多、数、で、あ、る、。、
 知、し、既、に、お、し、大、抵、に、鑑、識、化、の、事、便、即、ち、同、作、の、果、
 種、的、構、造、は、結、局、自、然、格、の、元、分、構、造、を、も、つ、と、
 現、在、に、な、る、。、か、一、般、で、あ、る、。、か、さ、ら、比、較、的、な、考、

白地抄紙の

種の集團をあげようかある。

一、組織が及ぶ以後の行政的地域関係。

一、氏神に因りて集團組織。

一、入会山に因りて集團組織。

一、経済的活動の爲の集團組織。

一、旧時の村に於て組織。

一、村仕事の労働組織。

一、準備協力組織。

一、同族組織。